

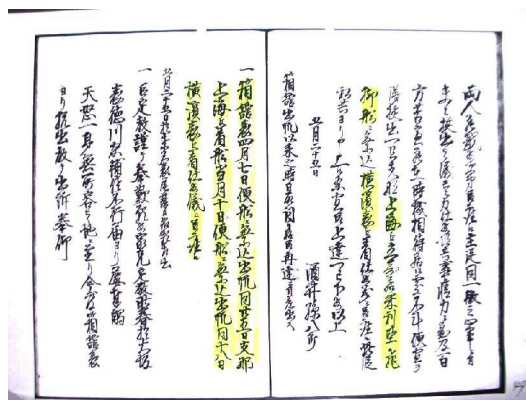
## 領松平定敬の降伏と桑名藩の再興

郷土史家 西羽 晃

明治2(1869)年4月、前桑名藩主・松平定敬は箱館を出て、森村を経て室蘭沖へ出ましたが、停泊していた船は出航していました。仕方なく箱館近くの亀田まで戻りました。箱館で外国船と交渉していた平松屋寅吉が上海行のアメリカ帆船に乗船の許可を得てきましたので、4月13日の未明に定敬、酒井孫八郎、松岡孫三郎、寅吉の4人だけが乗船して、箱館を出港しました。途中の嵐のため26日に横浜沖に到着しました。酒井と松岡のみが下船し、定敬と寅吉はそのまま上海へ向いました。定敬は多少の英語を学んでいたけど、アメリカ船や上海で一人では不安だし、寅吉が同行しました。

酒井と松岡は東京へ出て、尾張藩邸に嘆願書を提出しましたが、降服しても厳刑にならない感触を得たようです。5月8日、酒井は横浜に着き、定敬の帰国を待ちました。当時はまだ電信もなかったので、上海と急ぎの連絡はできなかったと思われます。最初から定敬は帰国する予定で、降服の根回し期間のため上海へ一時逃れていたと思われます。定敬は5月10日に上海出港のmail steam ship(当時は飛脚船と訳された)の「コスタリカ号」(アメリカ船籍、1970トンの蒸気船)に乗り、途中、長崎、兵庫に寄港して、横浜に同月18日に着きました。同じ日に、箱館の榎本武揚らが降服して、戊辰戦争は終結しました。箱館で戦っていた旧桑名藩士も降服しました。

出迎えの酒井らと共に定敬は東京の尾張藩邸に出頭して降服を申し出ました。その後に新政府からの取り調べがあり、その時に提出した供述書(写し)の一部を掲載します。この供述書の日付は一部改ざんされていると思われます。



「松平定敬家記」(国立公文書館所蔵)

定敬の降服で桑名藩の戦争状態は終結し、処分が8月15日に発表されました。

- ー 定敬は死を免れ、津藩に預けられる
- ー 松平万之助は桑名藩6万石を支配する

藩領のうち、飛び地の越後柏崎付近と員弁郡の一部を削られ、約半分になりましたが、占領を解かれ、独立しました。9月3日に桑名城の引き渡しがあり、4日には領地の引き渡しもあり、藩士たちも謹慎の身を解かれました。万之助は9月に上京し、9月20日付で従五位に叙され、桑名藩知事に任命されました。この時に万之助を定教（さだのり）と改名したようです。

戦争責任者の出頭が命じられ、明治2年箱館まで戦った森陳明が桑名藩の責任を一身に負って出頭しました。彼は桑名藩の公用人として諸藩との交渉にあっていたので、顔を知られていました。彼は11月13日、東京深川の旧桑名藩屋敷で処刑されました。